

人文学類

College of Humanities

- 学士（人文学）
- Bachelor of Arts

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人間が引き起こすさまざまな社会問題や人類が直面する課題に対し、哲学、史学、考古学・民俗学、言語学などの人文学の知見を基盤にして想像力をもって主体的に応え、また、人文学をそれに耐えうる学問分野として維持し発展させることができる人材を養成します。

養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> - 哲学、史学、考古学・民俗学、言語学などの人文学諸分野に関する専門知識と方法論を修得し、人文学的見地から調査・研究を行うことができる人材を養成します。 - 論理的かつ効果的に自分の考えを他者に伝え、広い視野から他者の考えを理解することができる人材を養成します。 - 人文学的知見を基盤とした想像力を働かせながら、人間社会の課題の把握とその解決に主体的かつ協同的に取り組むことができる人材を養成します。 - 地域社会から国際社会におけるさまざまな領域でリーダーや中核的な存在となれる人材を養成します。
卒業後の進路	<p>研究者、国際公務員、国家公務員、地方公務員、教員、学芸員などの職を目指すことができます。起業したり、一般企業でリーダーとして活躍する道もあります。</p>

学位授与の方針 / Diploma Policy

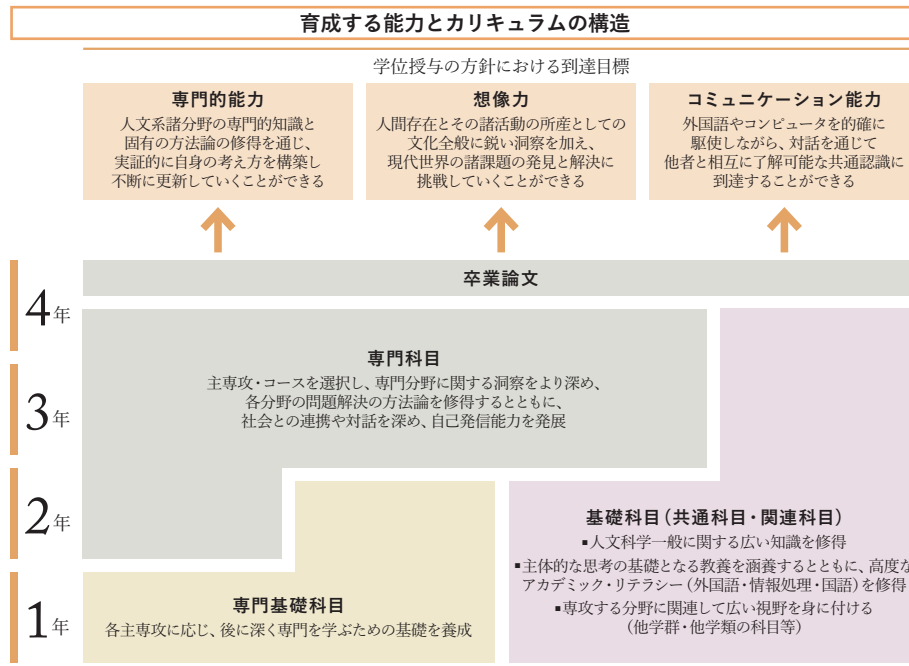
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（人文学）の学位を授与します。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 人文学の知識・研究手法	人文系学問分野の専門的知識と固有の方法論を修得し、文献や原資料、フィールドワークなどに基づいて調査や研究を行うことができる。
	2. 人文学的思考力	人文系学問分野の専門的知識と固有の方法論をもって「人間とは何か」という問いにアプローチし、得られた知見を発信することができる。
	3. ディスカッション力	外国語やコンピュータを的確に駆使しながら、他者に自らの考えを論理的に伝達するとともに、他者の考えを十分に理解し、対話を通じて相互に理解可能な共通認識に到達することができる。
	4. 想像力	人文学的思考を基盤とした想像力によって、人間社会の諸課題を把握し、その解決に取り組むことができる。
学修成果の評価に関する方針	<p>卒業論文を学修の集大成として位置付け、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかどうかを卒業論文、その執筆過程、最終口頭試問により総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 卒業論文の審査は指導教員のほか、当該分野を専門とする教員1名以上によって行い、学修成果の達成状況を確認します。 - コースごとに開講される授業科目「研究-a/-b」における卒業研究への取り組みを通じ、学修成果の達成状況を当該コースの複数の教員で評価します。 - コースごとに卒業論文に対する口頭試問を実施し、学修成果の達成状況を当該コースの複数の教員で評価します。 - 上記の結果を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。 	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（人文学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

<p>教育課程の編成方針</p>	<p>総合的な方針</p> <p>哲学、史学、考古学・民俗学、言語学という4つの主専攻を置き、各主専攻には専門分野毎にコース（全体として11コース）を設け、1年次から卒業まで段階的に専門知識を深く身につける学修カリキュラムを提供します。開設科目は専門基礎科目と専門科目に大別されます。専門基礎科目は概論・概説系の科目で、主に専門コンピテンスの中の「人文学の知識・研究手法」に関わる内容を学びます。専門科目は講義や演習・実習系の科目で構成され、4つの専門コンピテンスに関わる内容を学びます。特に、講義系の科目では「人文学の知識・研究手法」に焦点をあてる一方、演習・実習系の科目では「人文学的思考力」、「想像力」に重きをおき、あわせて「ディスカッション力」の向上にも注力します。そして、学修の集大成として卒業論文を執筆します。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>教育課程前半では、専門分野に関する基礎的な能力を養いつつ、「総合智教育」の理念に基づいて豊かな教養を涵養することを重視します。教育課程後半では専門分野に関する洞察をより深め、卒業研究につながる教育内容を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次から2年次にかけては、「専門基礎科目」などを通じて、人文学に関する広い知識と専門を学ぶための基礎力の獲得に重点をおきます。 - 3年次からはコースに所属し、「専門科目」の講義や演習・実習を通して各分野の研究手法を身に付け、「人間とは何か」という問題意識のもと、人文学に関する理解を深めます。また、人文学的視点から人間社会の諸問題を捉える視点を持ち、その解決に関心をはらうことを意識します。 - 4年次には3年次までに身につけた専門的能力や問題意識に基づき学びの集大成を行います。具体的には、各コースが開設する「研究-a/-b」という科目において卒業研究に取り組み、卒業論文を完成させます。 	<p>主専攻・コースの構成</p> <p>哲学主専攻 哲学・倫理学 宗教学</p> <p>史学主専攻 日本史学 ユーラシア史学 歴史地理学</p> <p>考古学・民俗学主専攻 先史学・考古学 民俗学・文化人類学</p> <p>言語学主専攻 一般言語学 応用言語学 日本語学 英語学</p>
<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<p>人文学の知識や研究手法を体系的に学び、卒業研究につなげていけるよう、全員3年次からコースに所属して専門性を深めていくという教育体制をとっています。これにより、教員は学生の学修状況を詳しく把握し、学修の進展に応じて適切な課題を与えることが可能となっており、また、学生は常に教員や他の学生とディスカッションを活発に行う環境におかれています。さらに、一定の範囲内で他コースや他主専攻、他学類の授業を履修することも可能となっており、人文学的知見を応用することや社会に関心を持つことにつながる幅広い学びの機会が用意されています。</p>	

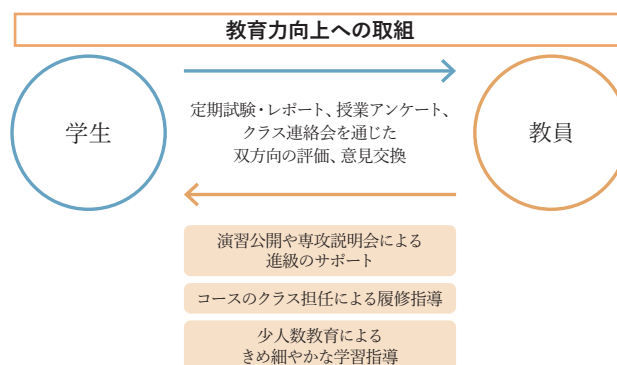


入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	人文系の学問に必要な論理的な思考力と表現力を十分に持つと同時に、世界の多様な文化や歴史に対して開かれた関心を持ち、自律的な学習と批判的な考察を通して問題を自ら発見し解決していく能力と意欲を有する人材。	
入学者選抜方針	個別学力検査等前期日程	入学後の学習に必要な基礎学力と思考力を十分に持ち、人文系の学問に取り組むことのできる人材を選抜します。
	個別学力検査等後期日程	論理的な思考力と表現力を持つと同時に、旺盛な知識欲と探求心を有し、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。
	推薦入試	高等学校における学習の基礎をしっかりと身につけた志願者の中から、個性豊かな課題意識と向上心を持ち、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。
	AC入試	人文系の学問に関わる専門知識を主体的に吸収し、自己の判断力を磨いていく能力と創造的な問題解決能力を有する人材を選抜します。
	国際バカロレア特別入試	人文系の学問に強い関心を抱くと同時に、旺盛な知識欲と探求心を持ち、よりグローバルな観点から新たな問題提起をなし得る発展性のある人材を選抜します。
	外国学校経験者特別入試（第1種）	人文系の学問に関する強い関心と論理的思考力を持ち、入学後の学業遂行に必要な知識と日本語能力を備えている者を選抜します。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<ul style="list-style-type: none"> - 1人の教員が1年次から4年次までを通して担当するクラス担任制と並行して、3年次以降は11コース毎にコースのクラス担任もつき、専攻に即した履修指導を行っています。 - 1・2年生のために、演習公開や専攻説明会を実施し、3年次での主専攻・コースへの進級が円滑に進むようサポートしています。 - 大学院進学などの勉学の動機付けになるように、3年次の成績優秀者を表彰しています。
学生同士の交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 学生主体の卒業論文発表会や卒業論文中間発表会を実施し、学年をまたいで学生同士が刺激しあう環境を整えています。
教員との交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 年2回のクラス連絡会を通じて学生・教員間の意見交換を行うことにより、教育の質の持続的改善を図るシステムを確立しています。



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 学修成果の集計結果、定期的な試験・レポートと授業アンケートの実施により、教育目標の達成度について教員と学生が双方向に評価し、教育力を向上するよう努めています。
- 演習授業や卒業論文指導では、少人数の学生を対象に、個々の学修の進展状況を十分に把握し、それに応じたきめ細かい指導を行っています。
- 実習授業では、報告書を作成するなどして成果を地域社会へ還元し、その評価を授業の改善に生かすことに努めています。